

第9章

男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修

引間 紀江

佐國 勝

1 はじめに

国立女性教育会館は、平成15年度～平成17年度に行った「女性のキャリア形成」の調査研究の成果を生かし、「女性のキャリア形成推進研修」を実施してきた。平成18年度からは、全国各地で男女共同参画および女性教育に関する喫緊の課題を担当する指導者の資質・力量の向上を目指した先駆的・モデル的研修として位置づけ、第2期中期計画期間（平成18年～22年）の5カ年を終えたところである。

本稿の目的は、これまでの研修の推移、成果と課題を明らかにし、平成22年度の事業報告と、平成23年度から行う新たな第3期中期計画初年度の「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」事業の計画について述べるものである。

2 これまでの「女性のキャリア形成推進研修」

背景

国立女性教育会館（以下、会館）では、昭和52年のオープン以来、わが国唯一の女性教育のナショナルセンターとして、女性教育指導者・女性教育関

Ⅲ プログラム開発

係者に対して男女共同参画、女性教育・家庭教育に関する多様な国内の研修事業、交流事業を実施してきた。主催事業参加者は、昭和52年～平成21年の間で15万人近くに及ぶ。

これらの主催事業参加者は、事業参加後、それぞれの地域で参加者同士がグループを結成し、地域づくりなどの多様な社会活動を展開し、個人的な成果だけでなく、地域における男女共同参画の推進、地域の活性化という社会的な成果をあげている。中には、その団体・グループ名に会館の愛称である「ヌエック」、あるいは会館の所在地である「らんざん」を付与しているものもあり、その活動が現在に至るまで、20年、30年以上も続いているものが複数ある（詳しくは、平成21年に会館が実施した『「地域活性化に向けた男女共同参画推進に関する調査研究」報告書』参照）。このように、各地で会館の事業参加者が、会館での研修成果を地域に広げ、さまざまな実践活動を行っている。

平成20年度からは、これまでの会館の事業参加者が地域での活動実践を持ち寄り、互いに意見交換、情報交換を行うことで地域課題の解決の方向性を探り、地域活動を一層活発化するとともに、会館を中心とした全国的なネットワークづくりをすすめるため、新たに「交流学习会議」を開催している。

特 徴

第1の特徴は、会館の調査研究事業と連携をしながら学習プログラムを組んでいる点である。第1表は過去5年間の研修の概要であるが、調査研究により得られた新たな知見や手法を研修の中に組み込んでいることがわかる。具体的な例では、事例報告者として、会館が様々な分野において活躍しているロールモデルとなる女性の事例を収集したブックレットやキャリア形成支援サイトの人材を活用している。また、そのブックレットを用いたロールモデル分析手法（会館で開発）をも取り入れている。

第1表 平成18年度～平成22年度「女性のキャリア形成支援推進研修」概要

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
主題	多様なキャリア形成を支援する	多様なキャリア形成を支援する	キャリア視点から見た地域づくり	キャリア概念を捉え直した女性のキャリア形成支援	多様な女性のキャリア形成を支援する
参加者	100名募集 110人 ①女性関連施設・生涯学習施設・教育センター等の職員 ②女性団体・グループ・NPOリーダー ③大学・短大等で就職・進路指導、相談等に関わる教職員	60名募集 78人 ①女性関連施設・生涯学習施設・教育センター等の職員 ②女性団体・グループ・NPOリーダー	60名募集 76人 ①女性関連施設・生涯学習施設・教育センター等の職員 ②女性団体・グループ・NPOリーダー	60名募集 66人 ①女性関連施設・生涯学習施設・教育センター等の職員 ②女性団体・グループ・NPOリーダー ③大学等のキャリア教育支援者	80名募集 78人 ①女性関連施設・生涯学習施設・教育センター等の職員 ②女性団体・グループ・NPOリーダー ③大学等のキャリア教育支援者
特徴	・女性のチャレンジ支援 ・女性のキャリア支援形成サイトの活用 ・情報センター	・キャリア形成支援 ・再チャレンジ支援 事例報告5つ 分科会2つ	事例報告5つ 「スキルアップ」 「マインドアップ」 「ロールモデル分析」 分科会2つ	「女性のライフプランニング支援」 「再チャレンジ支援」 「社会活動キャリア」 分科会3つ	「社会活動キャリア支援」 「ワーク・ライフ・バランス」 「若年層に対する支援」 分科会3つ
方法等	スエック・ブックレットの活用	事業（活動）計画作成	ロールモデル分析手法		スエック・ブックレット 事業（学習）計画作成 役割事例分析手法
反省点	参加者の所属にあった学習内容の設定	キャリア概念の転換と社会参画	多様なキャリア概念の理解をより深める女性施設の実例がほしい	計画案づくりの時間が短い。（特に討議を多く）	事前学習（分析シート）の活用方法

第2の特徴は、参加者が実際に自分の組織にあった事業（活動）計画案を作成するという点である。本研修で事業（活動）計画案を作成した後、地域に戻ってそれを実践し、活動を行っている女性団体、女性センター等もある。研修後のアンケート結果でも、この事例研究と事業計画案づくりの満足度は高く、先進事例を知り、今後の計画案づくりをするという目的を持って参加している参加者も多い。

3 平成22年度「女性のキャリア形成支援推進研修」について

実施の概要

平成22年度は、会館の調査研究で明らかになってきている「社会活動キャリア」「複合キャリア」の概念や、若年層からのキャリア形成支援の必要性から「多様な女性のキャリア形成を支援する」ことを主なテーマとして取り上げた。参加者は、女性関連施設・生涯学習施設・教育センター等の職員、女性団体・グループ・NPOのリーダー、大学等のキャリア教育支援者等、幅広い層からの78名の参加があった。

1日目には、「多様なキャリア」の必要性と今後の方向性について講義から学び、調査・研究報告からのデータ、事例報告等をもとに、参加者がキャリアの概念や課題を整理し、共有した。2日目には、事例報告を5つ取り上げた。前半は「女性の多様なキャリア形成支援」というテーマで3人の報告、後半は「若年女性のキャリア形成支援」というテーマで2つの報告をした。どちらもコメンテーターがインタビュー形式の質疑・応答を行い、参加者も交えながらプログラムをまとめた。

2日目午後から3日目にかけては、社会活動キャリア支援コース、ワーク・ライフ・バランスコース、若年層に対する支援コースの3つの分科会に分かれてワークショップを行った。会館の調査研究、実験プログラム、ロールモデル分析の手法等を活用し、参加者の課題を明確にした上で、地域・施設等における支援のあり方を検討し、各自が事業（学習）計画案づくりを行った。ワークショップの内容としては、これまでの研修内容と成果を整理しながら、それぞれの地域・所属する組織での支援の内容と方策についてディスカッションを行い、事業（学習）計画案を作成し、発表を行うものである。組織や地域の問題点を「緊急性」「必要性」「実現可能性」の観点から課題化する作業を行い、参加者同士で情報交換したり、アイデアを共有したり、アドバイスしたりしながら計画案づくりを進めていった。

まとめとして、参加者全員（個人またはグループ）が計画案の発表を行い、発表を聞きながら、「良いところ」「疑問に思うところ・改善できるところ」を色分けて付箋に書き、意見交換をし、見直し修正を行った。すぐに持ち帰って実践できる事業（学習）計画や、今ある事業を本研修で学んだことをもとに改善した事業計画、組織に提案して行っていく事業（学習）計画など、多様な取組が考え出された。全体会では、各コースから2名ずつ代表6名が、作成した案を堂々と発表し、全体で共有した。コメンテーターからは、代表の発表に対するコメント、それぞれのコースに対するコメント、事業づくりのポイント等が話され、参加者の熱心に聞き入る様子もうかがえた。

プログラム全体の取組図・プログラムデザイン（第2表）、その内容を時間配分等実際の形にした日程表（第3表）、研修中の様子（写真）で紹介する。



講義する神田理事長



社会活動キャリア支援コースの様子

第2表 平成22年度「女性のキャリア形成支援推進研修」プログラムデザイン

【本プログラムの特徴】

- ① 男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践力に結びつける。
- ② 男女共同参画推進担当者との関係・連携の向上。
- ③ 実践事例の重視。
- ④ 研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かすというサイクルに結びつくことを考えたプログラムの構成。

対象	全国的な女性活躍推進・生涯学習推進の進展、NPO・女性団体・グループのリーダー、大学等のキャリア教育推進者 等		目的	目標	内容	方法
	1 女性一人一人が置かれた状況に応じ、柔軟にキャリアを設計する中で、多様なキャリアの視点に留意しながら、個人の活動を社会に結びつける視点を導入し、女性キャリア形成支援を内理とする専門的・実践的な研修を行う。	2 研修成果の普及啓発の取組や状況について情報交換を行い、指導者相互の関係づくりの支援を行う。	実態把握、課題分析	実態把握、課題分析 ・先進事例から今後の方向性と留意点を学ぶ	事例研究 8<事例発表I及びインタビュー> 「女性の多様なキャリア形成支援」 9<事例発表II及びインタビュー> 「若年女性のキャリア形成支援」	10 キーワード事例 分析手法 ○キャリア事例分析の意味・分析手法について学ぶ
	男女共同参画推進意識の浸透と女性のキャリア形成に関する課題と女性のキャリア形成に関する課題の把握	3 推進する女性団体・NPO等の現状と課題の把握	実態把握	実態把握 ・日本社会の変化と多様なキャリア形成に対する把握	4 講義「女性のキャリア形成支援の必要性と今後の方向性について」 5 調査報告① 「日本社会の変化と女性のキャリア形成」 6 調査報告②と討議 「国立女性教育会館の女性キャリア形成支援の取組」 7 選択プログラム ①「女性教育情報センター」女性アーカイブセンター見学 ②「地域活性化に向けた男女共同参画に関する調査研究」報告	11・12 事業（学習）計画案づくり I：社会活動キャリア支援コース II：ワーク・ライフ・バランス支援コース III：若年女性に対する支援コース ○ロールモデル事例をもとに、どのような支援が必要になるかの分析 ○事業（学習）計画案づくりの方向性、基礎 ○グループ、個人における今後の活動支援のための事業（学習）計画案づくり ・作りの視点 ・課題の設定 ・意見交換 ・事業の精緻化
	男女共同参画推進意識の浸透と女性のキャリア形成に関する課題と女性のキャリア形成に関する課題の把握	3 推進する女性団体・NPO等の現状と課題の把握	実態把握	実態把握 ・日本社会の変化と多様なキャリア形成に対する把握	4 講義「女性のキャリア形成支援の必要性と今後の方向性について」 5 調査報告① 「日本社会の変化と女性のキャリア形成」 6 調査報告②と討議 「国立女性教育会館の女性キャリア形成支援の取組」 7 選択プログラム ①「女性教育情報センター」女性アーカイブセンター見学 ②「地域活性化に向けた男女共同参画に関する調査研究」報告	13 全体会（発表） ○ワークライフバランス作成し、事業（学習）計画案を発表 ・各グループ7名ずつ ・コメンテーターより講評
	男女共同参画推進意識の浸透と女性のキャリア形成に関する課題と女性のキャリア形成に関する課題の把握	3 推進する女性団体・NPO等の現状と課題の把握	実態把握	実態把握 ・日本社会の変化と多様なキャリア形成に対する把握	4 講義「女性のキャリア形成支援の必要性と今後の方向性について」 5 調査報告① 「日本社会の変化と女性のキャリア形成」 6 調査報告②と討議 「国立女性教育会館の女性キャリア形成支援の取組」 7 選択プログラム ①「女性教育情報センター」女性アーカイブセンター見学 ②「地域活性化に向けた男女共同参画に関する調査研究」報告	13 全体会（発表） ○ワークライフバランス作成し、事業（学習）計画案を発表 ・各グループ7名ずつ ・コメンテーターより講評



第3表 平成22年度「女性のキャリア形成支援推進研修」日程表

月日	時間	内 容
7/14 (水)	13:00～ 13:20	開 会
	13:20～ 14:00	講義 「男女共同参画意識の涵養と女性のキャリア形成支援」 講師 国立女性教育会館理事長 神田 道子
	14:10～ 15:10	講義 「女性のキャリア形成支援の必要性と今後の方向性について」 講師 元東京女子大学教授 矢澤 澄子
	15:20～ 16:00	調査報告 「日本社会の変化と女性のキャリア形成」 講師 独立行政法人労働政策研究・研修機構 特任研究員 奥津 眞里
	16:10～ 17:00	調査報告と討議 講師 国立女性教育会館研究国際室長 中野 洋恵
	17:20～ 18:00	選択プログラム ① 「女性教育情報センター・女性アーカイブセンター見学」 ② 調査報告と討議 「学習や活動の成果の『見える化』」
7/15 (木)	9:00～ 10:40	事例発表1 及びインタビュー 「女性の多様なキャリア形成支援」 コメンテーター：首都大学東京副学長 江原 由美子 ・事例報告1 NPO法人サポートハウス年輪理事長 安岡 厚子 ・事例報告2 奈良県女性センター事業係長 廣田 明美 ・事例報告3 埼玉県男女共同参画推進センター女性就業相談担当 中村 恭子
	10:50～ 12:00	「若年女性のキャリア形成支援」 コメンテーター：埼玉純真短期大学教授（学長） 藤田 利久 ・事例報告1 「川村学園女子大学・国立女性教育会館連携プログラム」 川村学園女子大学人間文化学部教授 齋藤 幸子 川村学園女子大学人間文化学部非常勤講師 齋藤 慶子 ・事例報告2 「学生支援推進プログラム」報告 津田塾大学学長特別補佐・英文学科教授 高橋 裕子
	13:00～ 13:20	キャリア事例分析手法 国立女性教育会館調整主幹 小林 千枝子
7/16 (金)	8:30～ 11:00	事業（学習）計画案づくりⅡ（ワークショップ） <Ⅰ 社会活動キャリア支援コース> コーディネーター： 国立女性教育会館客員研究員 西山 恵美子 <Ⅱ ワーク・ライフ・バランスコース> コーディネーター： 財団法人大阪府男女共同参画推進財団（企画推進グループ） シニアディレクター 仁科 あゆ美 <Ⅲ 若年層に対する支援コース> コーディネーター： 聖心女子大学准教授 大槻 奈巳 学習支援：広島市女性教育センター 事業推進マネージャー 葛原 生子

Ⅲ プログラム開発

7/16 (金)	11:10～ 12:00	全体会での発表
	12:00～ 12:20	振り返り
	12:20	閉会

研修の成果

終了後のアンケートでは、次のような感想が寄せられた。

「講義がどれも内容の濃いもので、概念と具体例の両面から理解できた」
「日頃ある自分のアイデアを整理する時間はあるようでないので、事業をまとめるところまでできたことは非常に効果的だと思います」「他の施設の方や団体の方、NPOの方、大学の方など様々な立場の方と同じテーマについて学べたこと、話し合えたことで視野が広がった」「事例を通して身近なキャリア形成支援の課題を絞り、計画案を立てるというワークショップは、今後実際に企画する上でとても有意義であった」。

参加者のアンケート集計によれば、セミナー全体の満足度については、平成21年度の84.8%に対し、平成22年度は90.2%と5.4%の増加が見られた。評価の理由としては、主に、女性のキャリア形成について、「概念」と「具体的な事例」の両面から学習することができたこと、プログラムの構成自体が実際の企画に役立つこと等が挙げられていた。プログラムの有用度は、平成21年度も90.6%と高い評価を得たが、平成22年度はさらに4.9%アップし、95.5%とさらに高い評価を得た。特に「女性のキャリア形成支援の必要性と今後の方向性」、事例報告2については有用度100%であった。6ヵ月後に行ったフォローアップアンケートによれば、「研修内容の報告・説明を実施」78.6%、「女性のキャリア形成支援事業の企画・運営・実施に活用」60.7%といずれも高い数値であり、研修成果を地域にもどり、普及・活用していることがわかった。

4 平成23年度のプログラムについて

国の施策と本研修の関連

男女共同参画社会の実現は21世紀の最重要課題であり、一人一人が個性や能力を十分発揮して様々な分野に参画し、活力に満ちた社会を創造することが求められている。そのためには、自らが課題を見つけ、自ら学び考える力や豊かな人間性を育み、新しい知識や能力を主体的に獲得し、一人一人が社会の基盤づくりに参画していくことが重要となっている。第3次男女共同参画基本計画（平成22年12月閣議決定、以下「第3次基本計画」）においても「男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」が重点分野の一つとして設定されている（第11分野）。基本的な考え方として「男女が主体的に多様な選択を行うことができるよう、人生を通じたそれぞれの段階におけるライフスタイルに応じたきめ細やかな支援を行うとともに、女性の能力や活力を引き出すため、女性のエンパワーメントを促進する」ことについても言及されている。具体的施策としても「多様な社会活動をキャリアとして積極的に評価する」ことについて触れられている。

また、人権の尊重を基盤とした男女平等観の形成は、学校、家庭、地域などの社会のあらゆる分野で広く行われることが重要である。上記の観点に基づき、文部科学省では、女性と男性が各人の能力を十分に発揮し、社会のあらゆる分野に参画していくための学習機会の充実をはかっている。

さらに、「少子高齢化による労働力人口の減少が進む中で、女性を始めとする多様な人材を活用することは、我が国の経済社会の活性化にとって必要不可欠である。また、女性はその能力を十分に発揮して経済社会に参画する機会を確保することは、労働供給の量的拡大という観点に加えて、グローバル化や消費者ニーズが多様化する中で持続的に新たな価値を創造するために不可欠である」とし、「女性の活躍による経済社会の活性化」について改めて強調しており、重要視点のひとつとなっている。

Ⅲ プログラム開発

文教施策・政策との関連をみると、大学等の高等教育機関においても、大学設置基準及び短期大学設置基準の一部を改正する省令が平成22年2月25日交付、平成23年4月1日施行されたことを受け、学生の資質能力向上に対する社会からの要請は高まっており、卒業後の職業生活等への移行支援を行う必要性から、教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に取り組む指導体制が求められている。平成23年1月に出された中央教育審議会による「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）においても、生涯学習の観点からキャリア教育推進に対するより一層の理解と実践が求められている。

国立女性教育会館の中期目標および業務運営に関する計画（平成23年度）との関連

本年度は、国立女性教育会館の中期目標および中期計画の第3期1年目にあたる。このうち中期目標の「Ⅱ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」のうち、「2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及」では、「男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題（例えば、女性の活躍による社会の活性化、様々な困難な状況に置かれている人々への対応、地域における身近な男女共同参画の推進、男性の家庭・地域への参画促進、生涯を見通した総合的なキャリア教育等）に関する調査研究を行い、その成果に基づき学習プログラムの開発や教材の作成等を行う。キャリア教育については、大学等と協働して取り組む」（太字は引用者による）となっている。

これを受け、平成23年度の業務運営に関する計画では、「Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」の「2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及」のうち「（2）喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施」として、本研修の実施が位置づけられている。

なお、この計画においては、研修名が「男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育推進研修」となっていたが、実施にあたり「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」と変更した。これは後述する学習プログラムの企画段階に入り館内で検討した結果、今回の研修では「複合キャリア」のみならず、その他の内容も取り上げていることから、上記のタイトルを採用したものである。なお、「複合キャリア」の概念については、第1章を参照されたい。

参加対象者のニーズ把握とプログラム作成の観点

以上の社会的背景、施策との関連、これまでの研修成果を踏まえ、参加対象者を①女性関連施設・社会教育施設等の職員、②団体・グループ・NPO等のメンバー、③大学等のキャリア教育担当教職員等とし、実際にどのようなニーズを抱えているのか、過年度のアンケート結果等を参考にして対象者別の課題を以下の通りに整理した。

①女性関連施設・社会教育施設等の職員

- ・第3次基本計画を踏まえた新しい事業展開
- ・自施設の事業へ直結する具体的な情報・事例
- ・地域人材の育成・活用

②団体・グループ・NPO等のメンバー

- ・活動そのものが「社会活動キャリア」であり、生涯発達と地域づくりであることの理解
- ・新しい働き方としてのNPO活動に着目した、社会活動と経済的自立の両立

③大学等のキャリア教育担当教職員等

- ・正課内外でのキャリア教育プログラムの充実
- ・長期的視野に立った教育活動の展開（他機関との連携を含む）

学習プログラムの作成にあたっては、①男女共同参画の視点が盛り込まれているか、②社会活動キャリア、複合キャリアへの理解が深まるものとなっ

Ⅲ プログラム開発

ているか、③地域バランスを考慮した事例・講師の選定がされているか、④事業（学習）計画案作成等、地域・組織での実践力・関係力育成につながるか、の4点に留意した。

研修の目的とねらい

本年度の研修の目的は以下の通りである。一人一人が置かれた状況に応じて柔軟にキャリアを設計できるよう、多様化する個人のキャリアを男女共同参画の視点から社会と結びつけること。長期的なキャリア形成支援に資するため、会館のこれまでの調査研究や実践で明らかになりつつある「複合キャリア」のとらえ方を知り、キャリア形成支援の今後の方向性について見直しをもつこと。キャリア形成支援プログラムの立案、サポートシステムの構築等について学ぶこと。さらに参加者が研修の成果をそれぞれの組織・地域に持ち帰り、さらなる事業や活動に活かすというサイクルに結びつくことをねらいとする。

学習プログラム案

本研修で取り上げる「キャリア」とは、個人のライフイベントの単なる連なりや軌跡ではなく、社会の中で個人が果たす役割の発展過程として捉えている。職業キャリアはもちろん、社会活動キャリアも含めた「複合キャリア」の概念を取り入れ、「キャリア」概念を捉え直すというところが大きな特徴である。さらに研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かすというPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルに結びつくことを意識して、本研修のプログラムデザインを第4表のように作成した。

第4表 平成23年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」プログラムデザイン

対象	目的	目標	内容	方法
<p>【プログラムの特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会キャリアの働き方を取り入れ、キャリア観を捉え直す ・男女共同参画の視点を通じた、キャリア観・課題分析を行い、実践力に結びつける ・参加者相互の情報交換・交流を通じて「関係性」を高める ・学習を通して「プログラム」を体験 ・研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かすという実践サイクルに結びつけることを考えたプログラム 	<p>1 多様化する個人のキャリアを異文化共同参画の視点から社会と結び付け、長期的視野に立ったキャリア形成支援のために必要な方策について学ぶ。</p> <p>2 参加者の取組や研修成果の情報交換を行い、相互の関係作りの支援を行う。</p> <p>3 「事業（学習）計画案」を作成し、参加者が取組可能な方策を明らかにする。さらに「研修終了後のフォローアップ」により活用化・実践化を図る。</p>	<p>基礎知識を身につける</p> <p>男女共同参画の視点を知る</p> <p>国の最新動向の把握</p> <p>複合キャリア概念の理解</p> <p>実践把握 課題分析</p> <p>課題解決に向けた実践力・関係力</p> <p>実践活動へのつながり</p>	<p>0. 「キャリア」を定義し、キャリア形成支援の意義を把握する</p> <p>1. 「キャリア」の定義を把握する</p> <p>2. 社会の状況とキャリア形成支援の視点を知る</p> <p>3. 国の最新動向の把握</p> <p>4. 複合キャリア概念の理解</p> <p>5. 実践把握 課題分析</p> <p>6. 課題解決に向けた実践力・関係力</p> <p>7. 実践活動へのつながり</p> <p>8. 実践活動へのつながり</p> <p>9. 実践活動へのつながり</p> <p>10. 実践活動へのつながり</p> <p>11. 実践活動へのつながり</p> <p>12. 実践活動へのつながり</p> <p>13. 実践活動へのつながり</p> <p>14. 実践活動へのつながり</p> <p>15. 実践活動へのつながり</p> <p>16. 実践活動へのつながり</p> <p>17. 実践活動へのつながり</p> <p>18. 実践活動へのつながり</p> <p>19. 実践活動へのつながり</p> <p>20. 実践活動へのつながり</p> <p>21. 実践活動へのつながり</p> <p>22. 実践活動へのつながり</p> <p>23. 実践活動へのつながり</p> <p>24. 実践活動へのつながり</p> <p>25. 実践活動へのつながり</p> <p>26. 実践活動へのつながり</p> <p>27. 実践活動へのつながり</p> <p>28. 実践活動へのつながり</p> <p>29. 実践活動へのつながり</p> <p>30. 実践活動へのつながり</p> <p>31. 実践活動へのつながり</p> <p>32. 実践活動へのつながり</p> <p>33. 実践活動へのつながり</p> <p>34. 実践活動へのつながり</p> <p>35. 実践活動へのつながり</p> <p>36. 実践活動へのつながり</p> <p>37. 実践活動へのつながり</p> <p>38. 実践活動へのつながり</p> <p>39. 実践活動へのつながり</p> <p>40. 実践活動へのつながり</p> <p>41. 実践活動へのつながり</p> <p>42. 実践活動へのつながり</p> <p>43. 実践活動へのつながり</p> <p>44. 実践活動へのつながり</p> <p>45. 実践活動へのつながり</p> <p>46. 実践活動へのつながり</p> <p>47. 実践活動へのつながり</p> <p>48. 実践活動へのつながり</p> <p>49. 実践活動へのつながり</p> <p>50. 実践活動へのつながり</p> <p>51. 実践活動へのつながり</p> <p>52. 実践活動へのつながり</p> <p>53. 実践活動へのつながり</p> <p>54. 実践活動へのつながり</p> <p>55. 実践活動へのつながり</p> <p>56. 実践活動へのつながり</p> <p>57. 実践活動へのつながり</p> <p>58. 実践活動へのつながり</p> <p>59. 実践活動へのつながり</p> <p>60. 実践活動へのつながり</p> <p>61. 実践活動へのつながり</p> <p>62. 実践活動へのつながり</p> <p>63. 実践活動へのつながり</p> <p>64. 実践活動へのつながり</p> <p>65. 実践活動へのつながり</p> <p>66. 実践活動へのつながり</p> <p>67. 実践活動へのつながり</p> <p>68. 実践活動へのつながり</p> <p>69. 実践活動へのつながり</p> <p>70. 実践活動へのつながり</p> <p>71. 実践活動へのつながり</p> <p>72. 実践活動へのつながり</p> <p>73. 実践活動へのつながり</p> <p>74. 実践活動へのつながり</p> <p>75. 実践活動へのつながり</p> <p>76. 実践活動へのつながり</p> <p>77. 実践活動へのつながり</p> <p>78. 実践活動へのつながり</p> <p>79. 実践活動へのつながり</p> <p>80. 実践活動へのつながり</p> <p>81. 実践活動へのつながり</p> <p>82. 実践活動へのつながり</p> <p>83. 実践活動へのつながり</p> <p>84. 実践活動へのつながり</p> <p>85. 実践活動へのつながり</p> <p>86. 実践活動へのつながり</p> <p>87. 実践活動へのつながり</p> <p>88. 実践活動へのつながり</p> <p>89. 実践活動へのつながり</p> <p>90. 実践活動へのつながり</p> <p>91. 実践活動へのつながり</p> <p>92. 実践活動へのつながり</p> <p>93. 実践活動へのつながり</p> <p>94. 実践活動へのつながり</p> <p>95. 実践活動へのつながり</p> <p>96. 実践活動へのつながり</p> <p>97. 実践活動へのつながり</p> <p>98. 実践活動へのつながり</p> <p>99. 実践活動へのつながり</p> <p>100. 実践活動へのつながり</p>	<p>講義</p> <p>報告と質疑</p> <p>報告と質疑</p> <p>報告と質疑</p> <p>ワークショップ</p> <p>まとめ</p>



Ⅲ プログラム開発

以下、プログラムデザインに即して目標ごとに、内容と研修方法について述べる。

目標 1 基礎知識を身につける

「プレ・ワークショップ」では、地域における男女共同参画社会の推進に向け、日本の社会の様々な分野における女性と男性の現状を具体的なデータから読み解く。

「女性情報ポータルWinet紹介および女性教育情報センター見学」では会館が運営している女性情報ポータルWinetを使った情報収集の方法を紹介し、女性教育情報センターを見学する。

目標 2 男女共同参画の視点を学ぶ

講義「社会の変化とキャリア形成支援の意義——男女共同参画の視点から」により、近年の社会的な変化と現代的な課題を踏まえ、男女共同参画の視点からの生涯に渡るキャリア形成支援の必要性を考える。

目標 3 国の最新動向の把握

国のキャリア形成支援施策の現状及び今後の方向性について理解を深める。関係府省からの施策説明に加え、参加者の質疑応答から、今知りたい国の動向やポイントを探る。

目標 4 複合キャリア概念の理解

会館の調査研究で明らかになってきている「社会活動キャリア」「複合キャリア」の考え方、今後の研究についての報告を聞き、キャリア形成支援についての課題等について意見交換を行う。

目標 5 実態把握・課題分析

目標 4 までの概念の理解を踏まえ、より具体的な実態把握と課題分析を行うことで、次の目標 6 で行う事業（学習）計画案づくりに向けてつなぐ意味合いを持つ。

実態把握ではキャリア形成支援の先進事例およびプログラム作成の視点を学ぶ。主な内容は以下の 2 点である

- ・「社会活動キャリアの促進と地域人材の活用」「機関連携によるキャリア

形成支援プログラム」「長期的視野に立ったキャリア形成支援」の3つの事例報告とコーディネーターによるインタビューにより、今後のキャリア形成支援事業の方向性と課題を学ぶ。

- ・事業（学習）計画案作成のための視点と手法を学ぶために、会館で行ったキャリア形成支援プログラムを題材とし、報告と質疑により、プログラム開発から実施までのポイントを学ぶ。

課題分析では「課題整理のためのディスカッション」を行うことで、これまでの講義や事例報告等から受けた課題と参加者自身の取組とを結び付け、事業（学習）計画案づくりに向けて、それぞれに課題とニーズを整理・分析する。このディスカッションから「社会活動キャリア支援コース」（社会活動キャリア、NPO活動、地域づくりなど）、「ワーク・ライフ・バランスコース」（ワーク・ライフ・バランス、再チャレンジ、起業など）、「若年層に対する支援コース」（大学生へのキャリア形成支援プログラムなど）の3コース（カッコ内は作成する事業案のテーマ例）に分かれて行う。

目標6 課題解決に向けた実践力・関係力

「事業（学習）計画案づくり」では、課題解決に向けた実践力・関係力を養うために、関心のあるテーマに沿い、自組織・地域での実施を想定したキャリア形成支援プログラムを作成する。男女共同参画の視点からテーマ、対象者、内容、手法、協働・連携先を設定し、意見交換を行いながら計画（学習）案の精緻化をめざす。

研修最終日の「全体会」では、それぞれのコースで作成された事業（学習）計画案を発表し、全体で共有する。

目標7 実践活動へのつながり

研修終了約6ヵ月後、参加者が研修成果を地域・組織に持ち帰って、どのように地域・組織で活用しているのか、フォローアップアンケートを行う。ここまでの研修の一環とすることで、参加者が、研修のPDCAサイクルをより意識することをねらいとする。

5 今後の展開

本稿執筆時においては研修実施前のため、平成23年度の成果については研修後の参加者アンケートおよび6ヵ月後のフォローアップアンケートの結果を待ちたい。このフォローアップアンケートについては、過年度は研修前に「研修成果の活用プラン」を作成し、研修実施後の参加者の実践活動へのつながりをはかるための指標としていたが、今年度は研修中に作成する事業（学習）計画案づくりをそれに替えることとした。計画案は研修を通じて学んだことが反映されており、かつ地域・組織で行うための具体的な内容となっているため、これによりフォローアップアンケートの量的・質的双方からのより深い分析を目指す。

また次年度以降は今年度の実施結果をもとに、女性関連施設等の他機関との連携・協働によるプログラム開発と実施を予定している。地域・組織の実情と課題にあったキャリア形成支援事業の展開に向け、さらに検討をはかりたい。

（ひきま・のりえ 国立女性教育会館事業課専門職員心得）

（さくに・まさる 国立女性教育会館事業課専門職員）